

抜群の低温伸長性！ 厳寒期に大活躍！！

ステイシー

べと病レース
1~11抵抗性

ハウレンソウ

2017年冬は例年より気温が低く推移し、ハウレンソウの露地栽培では特に苦戦を強いられました。他社品種が大幅に収穫が遅れる中、「ステイシー」は低温伸長性を遺憾なく発揮し、順調に収穫を迎えることが出来ました。



栽培事例 〈播種:11月15日 調査:2月23日 露地+べたがけ〉



ステイシー 他社品種

低温伸長性に優れる「ステイシー」
厳寒期でもしっかり伸びます

【栽培のポイント】

- ①播種期の厳守
関東平坦地(ハウス)では
11月上旬~12月初旬播種
- ②ハウス・トンネル栽培では本葉
3~4枚期よりマメな換気をする。
厳寒期でも日中晴天時の蒸し込みによる徒長に注意する。
- ③厳寒期でもパスライトべたがけの
みの粗放的な栽培が向いている。



草姿極立性の「ステイシー」



軸はしなやかで収穫調整作業の
負担が少ないです



剣葉に近い中間葉で葉の面積が広い
「ステイシー」葉肉も厚みがあります

【ハウレンソウのべと病について】

ハウレンソウのべと病レースは多様化しており、防除には、栽培環境の改善と適切な農薬管理が必要です。まず、栽培環境面では通気性の確保が効果的。寒さが強くなると、トンネルやハウスの換気を控えがちですが、低温伸長性に優れる「ステイシー」なら思いきり換気しても大丈夫！
なお、「ステイシー」はべと病レース1~11に抵抗性を有していますが、べと病罹病のリスクを回避するためにも適切な薬剤散布を行うことが大切です。

冬を乗り切るなら「ステイシー」！ 詳細はP19へ